

ドクターヘリで重症患者を受け入れ

5月9日午前9時ごろ、朝起きると左半身まひで意識障害を訴える筑西市内の80歳代の男性から、119番通報がありました。消防の通信指令所は、いち早い救急搬送の必要があるとの判断から、ドクターヘリを要請。ドクターヘリは城西病院に搬送、男性は急性脳梗塞の疑いがあると診断され、点滴とりハビリの加療で入院することになりました。

城西病院のヘリポートは、これまで患者さんをドクターヘリで3次救急病院へ搬送したり、救急車からドクターヘリに乗り継ぐためのランデブーポイントとして活用してきましたが、今回はドクターヘリによる重症患者の救急搬送を直接受け入れしました。

茨城県内の119番通報は茨城消防救急無線・指令センター運営協議会の運営する「いばらき消防指令センター」に入り、救急の場合、命にかかわる一刻も早い処置が必要と判断された場合にドクターヘリの出動が要請されます。今回のケースでは、ドクターヘリを要請。受け入れ病院を探すなかで、ドクターヘリを運用する医療機関がDMAT（災害派遣医療チーム）で災害現場や訓練で協力体制にあった城西病院に受け入れを要請。急性脳梗塞の疑いが強いため、すぐに受け入れを行い、午前9時40分に城西病院へ搬送しました。

茨城県の県西地域は、脳外科や循環器の医師が比較的少ない地域です。今回は、ドクターヘリの受け入れ先を何件か打診したのちに、城西病院に要請したといいます。治療に当たった脳神経外科の後藤晴雄部長は「一般的に命にかかわるような脳梗塞の場合、緊急の



脳カテーテル処置が必要になります。重度の脳梗塞では、発症してから6時間以内の緊急処置が必要なケースもあります」と早期治療の重要性を話します。

ドクターヘリなど、重症者を救急搬送する手段は徐々に充実してきました。その上で、多くの人々が不慮の病などに遭ったときに、受け入れることのできる医療を充実させ、安心して生活ができる状況を作り出していきたいと、城西病院は努力を続けています。

2022年5月12日

